

(1) 事業名称等

- 【事業名称】 近代化遺産に命を吹き込む市民活動 愛岐トンネル群・緑の回廊プロジェクト
【実施団体】 NPO 法人 愛岐トンネル群保存再生委員会
【事業経費】 1,500,000 円
【事業領域】 文化財建造物修理に関わる技術の普及, 文化財建造物の管理活用組織強化
文化財保護の新たな体制づくり, 管理・活用に関するネットワークの構築

(2) 事業の目的

1) 背景

1966 年(昭和 41 年) 国鉄の電化に伴い新線が建設され、高蔵寺駅～多治見駅間(12 km)のうち約 8 km 区間が運用停止・廃線となりました。地元自治体・民間事業者に移管された廃線敷と 13 基の赤レンガトンネル群はその後放置され、庄内川沿い山腹の 8 km の廃線敷は、急峻な山肌の鬱蒼とした藪に覆われ人々から忘れ去られていました。

2007 年(平成 19 年)、41 年ぶりに明治の鉄道遺産を発見し、「愛岐トンネル群」と名付けて発掘活動を開始しました。全国的にもこれほどの短距離間に 13 基の極めて健全な明治期の赤レンガトンネルが現存する場所はありません。

渓谷に沿った鉄道遺産「愛岐トンネル群」に歴史街道「玉野古道」が並行し、廃線後半世紀の間に復活した数百種の貴重な樹木草や昆虫などの「自然相」、この三位一体となった全国でも希な 100 年前の地域の宝は、その姿を 100 年先の未来に伝えていかなければならない、まさに「私たち市民の義務」でもあります。

2) 目的

旧国鉄中央西線の廃線跡に残る近代化産業遺産「愛岐トンネル群」と隣接する歴史街道遺産「玉野街道」の発掘・調査・保存・再生により、鉄道遺産群の文化財価値の世論形成を強め、近未来には観光立地資源として地域活性化を促進するための活用を目指します。

(3) 事業活動の内容

1) 廃線敷と赤レンガトンネル群の調査・整備・保存

- ・ 3～6 号トンネルのクラックを凶面への落としこみによる記録整理。
- ・ クラックのパッチテストによる経年変化調査及びトンネル内落下物の定点観測。
- ・ 廃線敷植生・生態調査と希少植物の保護、竹林・藪の整備、歩路整備。
- ・ トンネルのれんが成分分析。
- ・ 廃線敷に再生した植生調査と希少植物の保護。

2) 一般向け特別公開と啓蒙活動

- ・ 春秋の特別公開、視察・教育関係見学者・マスコミ取材対応。
- ・ 公共施設・イベント会場等での資料展示・講演・広報 PR。
- ・ ホームページ、活動レポート、見学パンフレット、教材 DVD 等の作成・発刊。

3) ナショナル・トラスト

・廃線所有者（民有地）を買上げ・保存・継承のためのナショナル・トラスト運動。

4) フットパスの実現に向けてエリアの延伸。

愛知県側廃線は民間所有者から管理委託を受けて活動しているが、県境を越える地域は各地方自治体（3P下部を参照）所有であり、地権者の各行政との折衝・理解を得て活動エリアを延伸させることが次へのステップアップとなる。

※フットパスイメージ図は冊子「活動レポートNO,2」の40Pに記載。

5) 自治体・町おこし組織、自然保護団体等との連携・ネットワーク構築。

全国に点在する鉄道関連遺産の再生を目指す団体等との連携を深め、先進事例を吸収し、町づくりに反映させる。

(4) 事業の成果

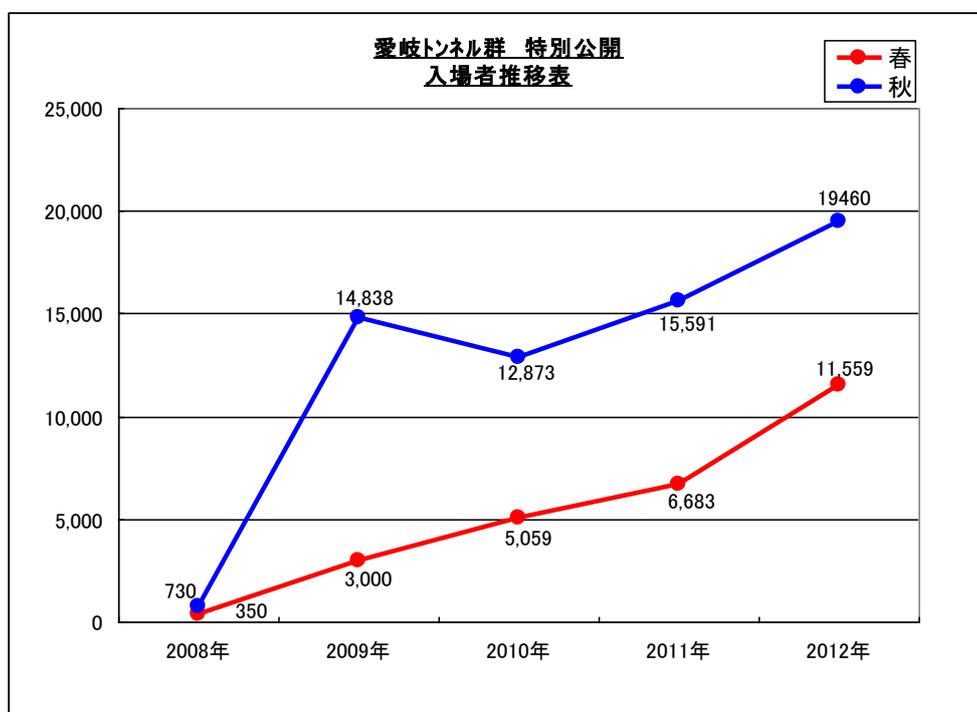
1) 廃線敷と赤れんがトンネル群の調査・整備・保存

(詳細は冊子「活動レポートNO,2」の30～33Pに記載)

廃棄れんがの成分分析（鉄分・シリカ・カルシウム等の含有量）データを群馬・碓氷峠のデータと照合するなどの地道な作業によりレンガ産地の特定を進めています。

2) 一般向け特別公開と啓蒙活動

2008年(平成20年)から「再生現場見学会」と称し、市民を対象に春・秋に各5日間程度の特別公開を実施しています。昨年秋の第10回目公開には、6日間で全国21都府県の他、海外から過去最高の19,460名の来場者があるなど共感の輪が広がり、観光集客資源として施設群の基礎的データ収集と実績作りの実践を進めています。



また、小冊子「活動レポート2」を編集発行。春日井・多治見市を中心に5ヶ所で展示会、3件の講演などで広報に努めたほか、中部大学と協働でDVDを作成し、現在市内小・中学校へ配布しようと準備中。マスコミ関係は今年度20回以上の新聞・TVに掲載、雑誌等は5誌に紹介されました。

3) ナショナル・トラスト (H21年5月より募金受付開始)

目標募金額まであとわずか、来年度中に達成予定です。

トンネル群再生基金	募金額	25年3月現在	14,519,980円	(+2225714円)
		24年同月	12,294,266円	(+4110763円)
		23年同月	8,183,503円	(+4378254円)
		22年同月	3,805,249円	

※昨年9・10月に地元信用金庫が「トンネル再生支援定期預金」を一般募集し、0.1%の50万円を寄付いただきました。

4) フットパスの実現に向けてエリアの延伸。

第一次再生計画として3号～8号トンネル間の通り抜け(フットパス構想)を進めています。これまで、関係団体から十分な協力が得られませんでした。昨年末名古屋市が7号の再生方針を打ち出し、H25年度に100万円の調査費を計上したことで行政という大きな堤防にアリの一穴が開きました。7・8号トンネルの通り抜け、さらに次の駅・JR駅舎へのジョイントが今後の大きなテーマになります。

5) 自治体・町おこし組織、自然保護団体等との連携・ネットワーク構築。

地元の中部大学と連携して来場者へ「観光資源化への動向調査」アンケート調査を実施し(活動レポートNO.229P参照)、その結果を地元春日井市商工会議所へ提供、昨年12月には同会議所の「観光地化最重要拠点」として指定され、今後の協働体制が整いました。

また加入する全国近代化遺産活用連絡協議会や赤煉瓦ネットワーク、日本フットパス協会で情報を収集する一方、独自に「全国トンネル(廃線活用)サミット」を開催し、全国で廃線利用する組織との交流を深めました。また兵庫県西宮市・旧福知山線の再生計画へのアドバイスをするなど、鉄道遺産の保全活用を目指す各地団体とのネットワーク化準備も手がけています。

(5) 事業実施後の課題

・全長8キロの廃線とトンネル群は地権者が下記の通り混在しています。この施設群を常時開放し、経費面でも自立する運営システムを構築することが最終目標です。そのためにはトンネルを所有する関係自治体や官公庁の理解が不可欠となりますが、無理なく100年後に残す手段を模索し続けます。

《1・2号トンネル》	JR東海所有 (保線用通路として運用中)
《3～6号トンネル》	民間地権者〃・当会の活動エリア
	※ ナショナルトラスト運動展開中
	——— 県 境 ———
《7号トンネル》	名古屋市〃 (名古屋市のゴミ最終処分場地内)
《8～14号トンネル》	多治見市〃 (現状は放置状態)

- ・れんがトンネルの健全度(安全性)調査を独自に実施しているが、専門的第三者による公的調査に基づく安全性の確保が急務です。
- ・現地は水道・電気・トイレすらない地域であり、ライフラインの確立も大きな課題です。

(6) 今後の展開

1) 新たな遺産活用を提案・実践

今年8月から名古屋市を中心に「あいちトリエンナーレ」が開催されますが、この賛助イベント「現代アート展」を廃線上で開催することに決定しました。廃線という産業遺産の観点のみならず屋外のアートギャラリーとしての新たな活用展開が広がり、同時に先鋭的な若者たちが遺産群を訪れることにより既成概念にとらわれない提案が産まれて来る事を期待しています。

2) 廃線ビジターセンターを開設

春・秋の公開には約4万人が来場、さらに現代アート展には1万人以上の来場を予想していますが、現地周辺にはトイレ・休憩所などの固定施設が全くありません。そこで、現地最寄駅下にある古民家を借り受けて改装し、現地事務所を兼ねたセンターを設置することで計画が進んでいます。今春には一部改装を行い、来春には助成金を受けて全面改装を模索しています。

(7) その他 今後の運営母体の構想

愛岐トンネル群 展開スキーム

